

「在宅医療及び障害福祉サービスを必要とする障害児等の地域支援体制構築に係る医療・福祉担当者合同会議」 事例発表資料



長野県PRキャラクター「アルクマ」
© 長野県アルクマ

長野県健康福祉部
障がい者支援課
自立支援係

長野県の医療と福祉の連携

- 県及び市町村が療育コーディネーターや相談員等を配置している障がい者総合支援センターを中心として、県及び地域自立支援協議会の中で連携、協働していく仕組みができはじめてきた！

なので、まだ
まだこれから

○面積：
1,356,223km²

長野県について

全国16位

○人口：2,097,792人
(H27.9.1現在)

全国4位

○市町村数：77
(市19 町23 村35)

市町村数全国2位
村数全国1位



県内10ある障害保健
福祉圏域でのまとめ

療育コーディネーターについて (平成9年～)

重心に特化
しているわけ
ではない

第1 目的(要綱から抜粋)

在宅の重症心身障がい児(者)、知的障がい児(者)、身体障がい児(以下「在宅障がい児(者)」という。)の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導、相談等が受けられる療育機能の充実を図るとともに、各種福祉サービスの利用調整等を行い、もって障がい児(者)の福祉の向上を図る。

療育コーディネーターについて (平成9年～)

保健福祉事
務所ごとに
配置

第4 事業内容(要綱から抜粋)

この事業は、障がい者総合支援センター等に在宅障がい児(者)の療育を担当する療育コーディネーターを配置し、在宅障がい児(者)及び保護者に対し、家庭を訪問する等により在宅療育に関する保護者の相談等に応じるとともに、各種福祉サービスの提供にかかる援助、調整等を行う

※各保健福祉事務所が社会福祉法人等に委託

療育コーディネーターの活動例①

週

曜日	日	月	火	水	木	金	土
主な活動内容	公休	AM 支援会議 ↓ 中学校訪問 ↓ PM 支援会議	PM 〇〇村就学相談委員会	AM 親の会 PM 支援会議	PM 支援会議 ↓ 支援会議	AM 保育園訪問(検討会) ↓ PM 〇〇村巡回相談連絡会	公休

月

	活動内容
上旬	<ul style="list-style-type: none"> 支援会議7件 個別相談2件 センター連絡会 保育園訪問3件 親の会支援
中旬	<ul style="list-style-type: none"> 支援会議3件 三村連絡会 わかもの相談会 サポーター養成講座講師育成研修会 保育園訪問 3件 親の会支援 療育部会 情報共有ファイル説明会 不登校対策チーム連絡会 所内ケース検討
下旬	<ul style="list-style-type: none"> 支援会議1件 個別相談2件 保育園訪問2件

個別・地域の
コーディネート役

協議会活動

療育コーディネーターの活動例②

曜日	日	月	火	水	木	金	土
主な活動内容	休み	1.本人電話相談 2.本人来所相談 3.小学校訪問 4.家族来所相談 5.保育士研修会参加	1.保育園訪問 2.特別支援学校訪問 3.高校巡回訪問 4.家族電話相談 5.本人来所相談	1.特別支援学校見学同行 2.福祉事業所電話相談 3.保育園訪問・支援会議 4.中学校電話相談	1.高校巡回訪問 2.家族電話相談	1.保育園訪問 2.保育園支援会議 3.家族電話相談	休み

週

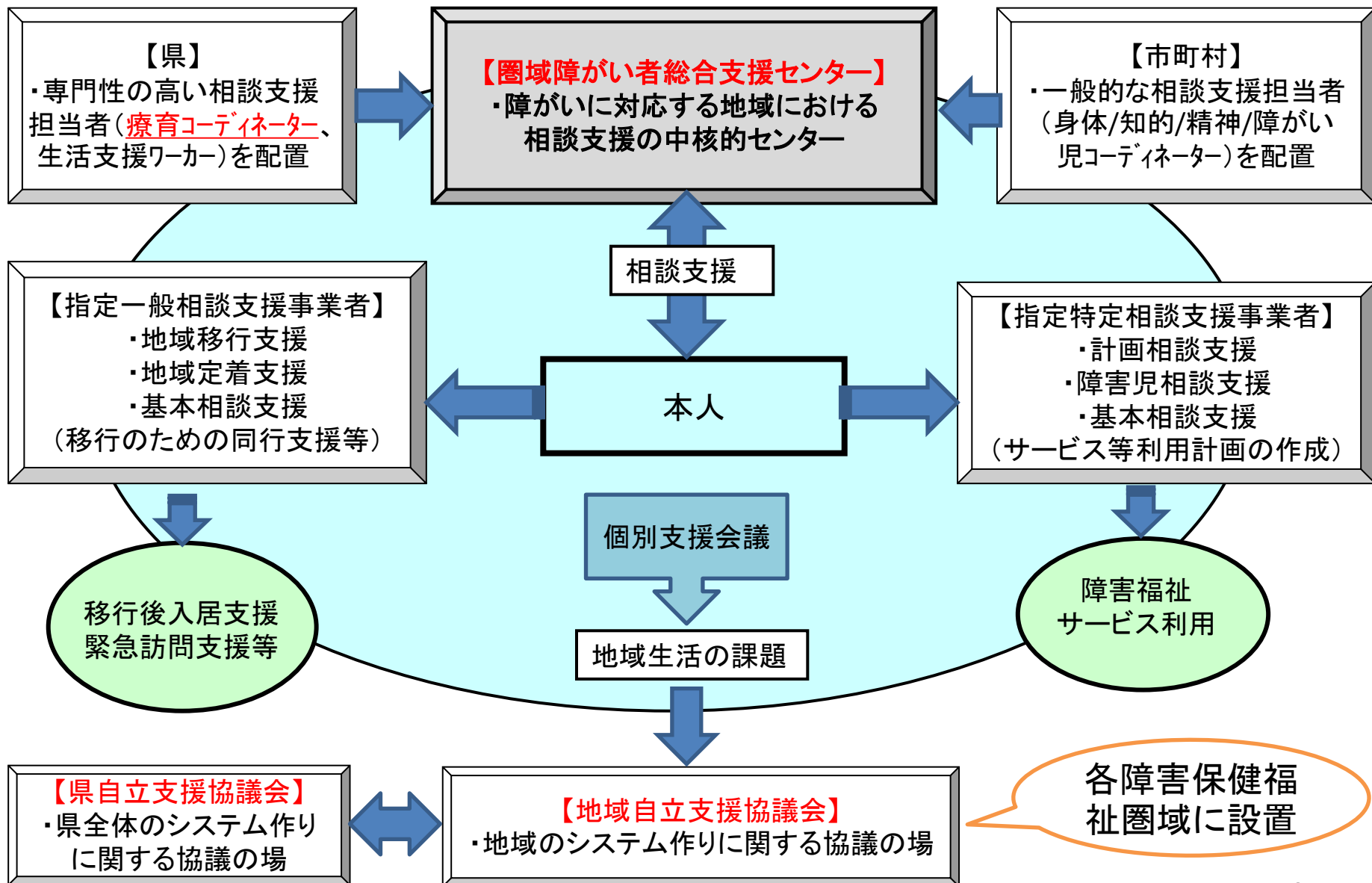
療育コーディネーターの役割は地域によって様々(アメーバ的)

	活動内容
上旬	5歳児相談(A町) 来所相談 小学校訪問 支援会議 電話相談 特別支援学校訪問・同行
中旬	5歳児相談(B町) 来所相談 園訪問 出張相談 電話相談 小・中学校訪問 支援会議 家庭訪問 高校訪問 関係者会議 事業所見学同行
下旬	園訪問 家庭訪問 電話相談 来所相談 自立支援協議会こども部会出席 療育部会出席

月

協議会活動

長野県の障がい者相談支援体制



〇〇地域(圏域)では

〇〇地域障害者自立支援協議会

〈構成員〉障害福祉行政機関・障害福祉サービス等事業所・当事者団体・障害福祉関係団体

事務局

〇〇圏域障害者総合支援センター

アドバイザー

全体会議

会長・副会長・協議会構成員

運営委員

評価委員

専門部会

地域生活支援部会

療育支援部会

就労支援部会

精神障害者地域生活支援部会

相談支援部会

権利擁護部会

重心WG

H25～

〇〇圏域における重心WGの始まり

きっかけは1つのケース事例との出会い。

平成24年当時、療育を16年間継続しているご本人とその家族の関わりがある支援チームに、計画相談の必要性から相談支援専門員が介入していった事から始まった。

「医療と福祉の連携」をテーマに 重症心身障がい児者との関わりのあるかた、これまでのケースの中で関わりを持つ方に、WGの趣旨と目的を伝えながら参加協力を開始。

療育コーディネーターも参加

多職種なWGで、テーマを絞り情報交換から始めていく中で見えてきたこと

「医療と福祉の連携」といっても、福祉は医療側の状況や制度がわからない。医療は福祉側の制度や社会資源がわからない。メンバーの声からまずは、医療機関向けに障害福祉サービスと制度の説明会。福祉従事者へは訪問看護と医療保険・医療的ケアについての説明会を実施。

⇒ お互いを知っていく事を目的に

H27現在WGメンバー38名中
医療機関から8名参加

これまでの動きの成果

この圏域の重心WGでは事例検討を多く行っており、個別で関わる中で課題があればそのWGで検討

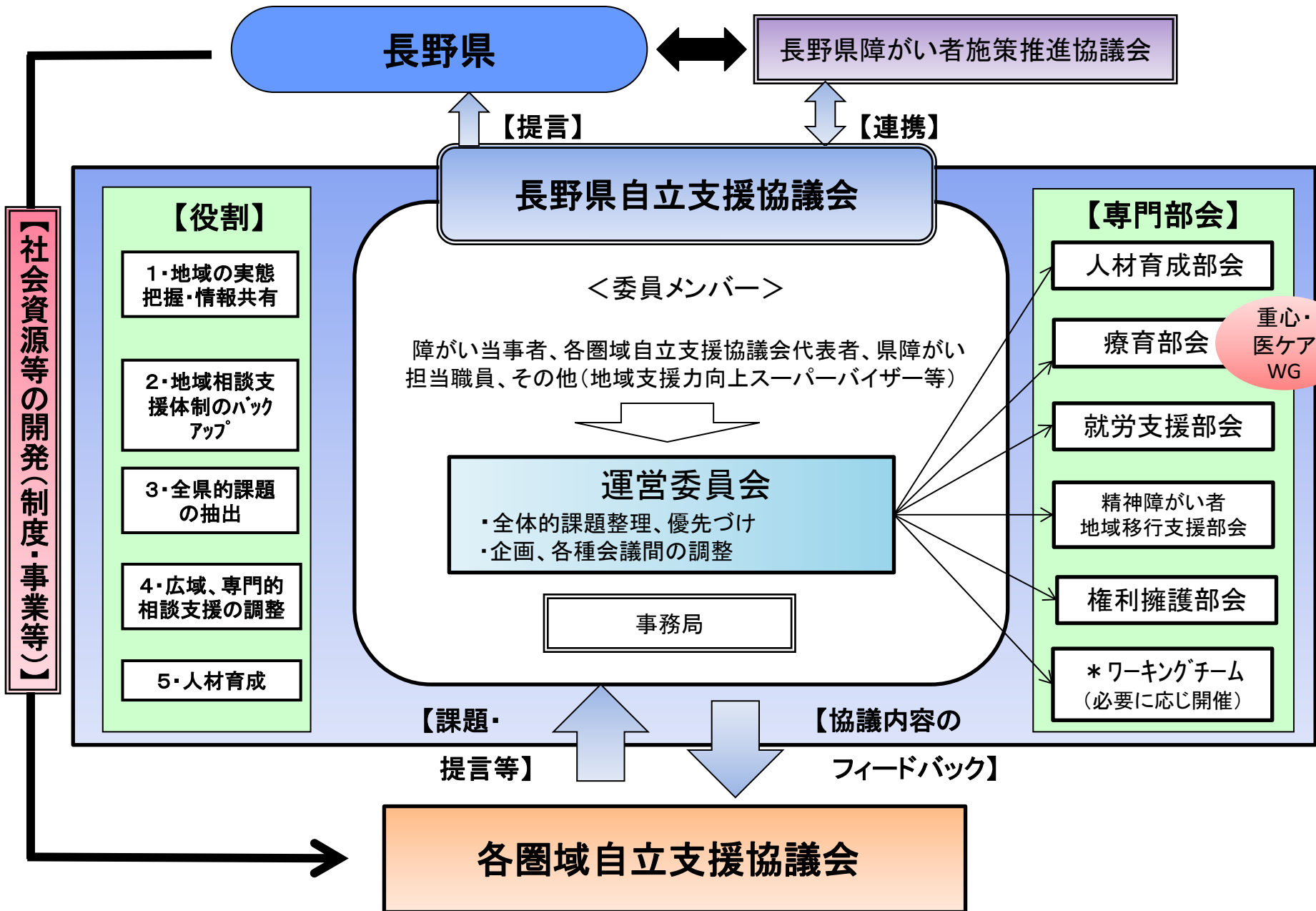
⇒実際の課題が解決に向かったことや、知った事で手を差し伸べてくれ支援チームが広がったりした事も！！

例：(障害福祉サービスではないが)、ある病院が医療保険を活用して、重症心身障がい者のレスパイト入院に取り組んでくれた！！

では、ほかの圏域はどうだろうか？

長野県自立支援協議会概念図

～地域自立支援協議会を支える仕組みの考え方～



長野県自立支援協議会療育部会 (H23～)について

目的

障がいのある子どもとその家族を地域で支えていくために、県内各圏域で活動する療育コーディネーター等が集まり、療育に係る保健・福祉・医療・教育機関等との連携の在り方、及び療育支援の在り方等について協議をするなかで、長野県としての療育支援体制の取り組みを強化すること

親支援
(CSP等)

発達障がい

教育との連携

- ※年5.6回程度各種テーマに沿って協議・意見交換
- ※平成22年までは「療育コーディネーター連絡会」

長野県自立支援協議会療育部会

部会員（H27現在）

各圏域療育コーディネーター、発達障がいサポート・マネージャー、精神保健福祉センター、**こども病院**、県担当（県教委含）等

ターニングポイント

H25重心をテーマにした際、話題提供者として招集

以降オブザーバー参加となり、最終的に部会員へ！！

長野県自立支援協議会療育部会

H25以降年1回程度重心をテーマにしていたが、内容は勉強会的な意味合いが強かった

H27は各地域における重心支援体制状況等の情報交換をメインにしたところ、各地域において課題がたくさんあるにもかかわらず、取り組み状況に地域差があることや、必ずしも療育部会員が中心となっていないこともわかってきた

⇒重心・医ケアWGの立ち上げへ

まずは3年間
を目途

県療育部会重心・医ケアWGの開催

各圏域で重心支援の中核的役割を担っている支援者チームを招集(第1回参加者34名)

(療育コーディネーター9名、相談支援専門員5名、福祉事業所職員2名、市町村行政・保健師3名、**医療機関関係者(Dr、MSW、Ns等)8名**、
・**県担当(県教委含)4名 等**)

地域での取り組みの賜物！！

⇒集約が困難なほど熱心な議論で話題が
尽きなかった

うちの圏域
では...

保健師と
仲良く
になりたい

個人情報
の取り扱い

レスパイトが不足

県療育部会重心・医ケアWG開催後

こんな報告
聞いてます

- ・重心について協議する場のなかった地域で重心WGが開催（内容：医療機関も交えて福祉制度の説明、事例検討）！！
- ・重心児等退院後の窓口として重要な役割が期待される市町村保健師への研修会を実施！！
- ・ある老人保健施設に医療型短期入所指定の相談に協議会メンバーで訪問！！

県療育部会重心・医ケアWGの意義



県の協議会がWGですべて協議してくれるから、地域協議会ではとりあえず静観してればいい



全圏域のオール長野で重心・医ケアの支援について取組みましょう！！県協議会でそのお手伝いをします！！

顔の見える関係を続けて行くことが大切と思っています

各地域が
活性化
するように